

提案「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」 之指導法

—以『大家的日本語初級』為例—

城戸秀則

東吳大學日本語文學系/博士生

摘 要

「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」是初級學習的文法項目，例如初級教科書『大家的日本語初級』（以下簡稱『大家』）裡，第六課提出有「勸誘」用法的「～ませんか」「～ましょう」，第 14 課提出有「申し出」用法的「～ましょうか」。可是這三個形式使用難以區分，常容易造成學習者混淆。

本稿論述原因在於課本及指導上的問題，以及三個形式與中文的對應關係和差異。此外，將以『大家』為例，提出區別各個形式用法並明確動作主的指導法。

關鍵詞：「～ませんか」、「～ましょう」、「～ましょうか」、
大家的日本語初級、與中文的對應和差異

「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」の 指導法の提案

—『みんなの日本語初級Ⅰ』を例に—

城戸秀則

東呉大学日本語文学科／博士課程

要 旨

「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」は、初級で学習する文法項目であり、例えば初級教科書『みんなの日本語初級Ⅰ』（以下『みんな』）では、第6課で「勧誘」の用法として「～ませんか」「～ましょう」が、第14課で「申し出」の用法として「～ましょうか」が提出される。しかし、学習者にとってはその使い分けは難しく、産出の際に混同してしまう。

本稿では、その原因が、教科書及び指導上の問題、3形式における中国語との対応関係とそのずれにあることを論じる。その上で、『みんな』を例に、それぞれの形式における用法と動作主を差異化して指導することを提案する。

キーワード:「～ませんか」、「～ましょう」、「～ましょうか」、
みんなの日本語初級Ⅰ、中国語との対応とずれ

**A Proposal of Teaching Method of
-masenka, -mashoo and -mashooka
—Taking “Minna no NihongoI” for Example—**

Kido, Hidenori

Department of Japanese Language and Culture, Soochow
University/Ph.D.student

Abstract

This paper proposes a new method for teaching -masenka, -mashoo and -mashooka, which Japanese learners often confuse. They are regarded as grammatical items that the beginner-level students learn, for example, a textbook for elementary level “Minna no NihongoI” (hereinafter, this is called “Minna”) presents -masenka and -mashoo as invitation expressions in lessen 6 and -mashooka as offering ones in lessen 15. However, it is, for learners, difficult to distinguish these three items, and they confuse their use.

In this paper, we argue that learners’ confusion is attributed to problems of the textbook and teaching, and correspondence and difference between Japanese and Chinese. Moreover, taking “Minna” for example, we attempt to propose a method of differentiating the use and clarifying the agent of -masenka, -mashoo and -mashooka.

Key words: -masenka, -mashoo, -mashooka, Minna no NihongoI, correspondence and difference between Japanese and Chinese

「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」の 指導法の提案

—『みんなの日本語初級Ⅰ』を例に—

城戸秀則

東呉大学日本語文学科／博士課程

1. はじめに

(1) ～ (4) は、学習者の会話の中にしばしば現れる。

(1) (授業が終わって)

S : # 先生、黒板を消しませんか。

(2) (S1 が S2 を野球の試合に誘う場面で)

S1 : # 野球の試合を見に行きませんか。↑

S2 : いいですね。行きましょう。

(3) (S1 がみんなとお菓子を食べていて、教室に入ってきた
S2 に)

S1 : このお菓子は美味しいですよ。S2 さんも一緒に
{a. ?食べましょう / b. *食べましょうか}。

(4) S : 日曜日私の誕生日ですから、パーティーをします。
うちへ {a. *来ましょう / b. *来ましょうか}。

(1) は、S が教師のために黒板を消そうと思つての発話であるから、「～ませんか」ではなく「～ましょうか」を使うべきである。「～ませんか」だと、教師に黒板を消すことを勧める発話になってしまう。

(2) の S1 の発話は、上昇イントネーション「↑」で発話されたものである。単に S2 を野球の試合に誘う場面での発

話であるから、「～ませんか」を使うべきであろう。「～ましょうか」(↑)だと、相手を気遣って試合を見に行くことを提案する発話になってしまう。

(3)(4)は、(3)では「～ませんか」を使ったほうが自然で、「～ましょう」は許容度が落ち、「～ましょうか」だと不自然になる¹。(4)も「～ませんか」を使うべき場面であり、「～ましょう」「～ましょうか」だといずれも不自然となる²。

このように、「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」の3形式の使い分けは、学習者にとっては難しく、混同する例が散見される³。

そこで、本稿では、『みんなの日本語初級Ⅰ』(以下『みんな』)を例に、教科書の扱いやその指導において問題があることを指摘する。そこから、適切な産出につなげるための指導法として、それぞれの形式における用法を差別化し、動作主を明示化して指導することを提案する。また、中国語の観点から見た場合、上記の3形式との対応関係が複雑であり、ずれが見られる。このことも、誤用を生む原因となっていることを論じる。

2. 「～ませんか」と「～ましょう」

2.1 動作主の明示化

「～ませんか」「～ましょう」は、いずれも『みんな』の第

¹ 「既に話し手が始めている行為に聞き手も参加するよう勧誘する場合には「～ませんか」が適当です。」(庵・高梨・中西・山田 2000)

(i) (宴会が既に始まっているところへ来た人に)

君も{?飲みましょう / ×飲みましょうか / ○飲みませんか}。
(庵・高梨・中西・山田 2000)

² 「意向が明らかでない聞き手を勧誘しようとする場合、「～ましょう」のみならず、「～ましょうか」も不適切で、「～ませんか」がふさわしい。」(姫野 2012)

³ この3形式における使い分けの誤用については、市川(2005)でも取り上げられている。

6 課で勧誘表現として提出される。

- (5) a. あしたテニスをしませんか。
……ええ、いいですね。
b. あした 10 時に駅で会いましょう。
……わかりました。

(6 課例文)

- (6) 佐藤 : あした友達とお花見をします。
a. ミラーさんもいっしょに行きませんか。
ミラー : いいですね。どこへ行きますか。
佐藤 : 大阪城です。
ミラー : 何時に行きますか。
佐藤 : b. 10 時に大阪駅で会いましょう。
ミラー : わかりました。

(6 課会話)

- (7) a. いっしょに京都へ行きませんか。
b. ……ええ、行きましょう。

(6 課練習 B7)

初めに、「～ませんか」と「～ましょう」の文に現れる動作主を見てみよう。まず、「～ませんか」の動作主であるが、(6a)では「ミラーさんも」とあり、「あなた」であることが明示されている。一方、(5a) (7a) では明示されておらず、動作主がだれであるかわかりにくい、「～ませんか」の動作主は「あなた」である⁴。

⁴ 「「ませんか」の勧誘の用法は、「あなたが」という聞き手のみ(2人称ガ格)の行為の勧めから、「(私に加えて)あなたが」「(私と一緒に)あなたが」というように、話し手をも含めた1・2人称ガ格の共同行為

次に、「～ましょう」の動作主であるが、(5b) (6b) では「会いましょう」という約束をしていることから、「わたしたち」であることがわかりやすい。一方、(7b) では、話し手の誘いに対する聞き手の応答であり、動作主は「わたしたち」であるが、このような「～ましょう」はここで教える必要はないと考える（後述）。

まとめると、「～ませんか」の文の動作主は「あなた」である一方、「～ましょう」の文の動作主は「わたしたち」であり、「～ませんか」と「～ましょう」は、この点において異なる。

次に、用法であるが、日本語教育では、「～ませんか」と「～ましょう」はともに勧誘表現として扱われている（姫野 1998、庵・高梨・中西・山田 2000）ため、『みんな』においても、聞き手の意向を尊重するかどうかという点において差はあるものの、同じ勧誘表現として提出されている。

以上、それぞれの形式における用法とそこに現れる動作主をまとめると、表 1 のようになる。

課	形式	用法	動作主
6	～ませんか	勧誘	あなた
	～ましょう		わたしたち

表 1

『みんな』では、「～ませんか」と「～ましょう」におけるそれぞれの動作主は明示されてはいない。しかし実際には、表 1 のように整理できる。「～ませんか」と「～ましょう」は、ともに「勧誘」の用法を持つが、動作主が「あなた」か「わたしたち」であるという点で異なるのである。このように、動作主を明確にすることは、学習者がそれぞれの形式を使い

に拡張されて生じたものである。」（姫野 2012）

分ける上で、重要な情報となる。

2.2 「～ましょう」は「勧誘」か

既に見たように、『みんな』では「～ませんか」と「～ましょう」はともに「勧誘」の用法として提出・指導されるのであった。姫野（1998）によると、勧誘とは、話し手とともに行為を遂行するよう聞き手に働きかけることを目的とする発話行為であるという。ところが、第6課に現れる「～ましょう」の文（5b）（6b）（7b）を見てみると、これらはいずれも「勧誘」ではないように思われる。「勧誘」と呼べる「～ましょう」は、以下のようなものではないか。

（8）－柴田さん

－はい？

－そろそろお昼食へに行きましょう。

－あ、そうですね。じゃ、行きましょう。

（川口・蒲谷・坂本 2002、下線は筆者）

（8）は、話し手は聞き手にも食事に行くように誘いかけている。つまり、聞き手に、行動を共にするように働きかけているのである。したがって、「勧誘」と言える。

では、（5b）（6b）（7b）はどうであろうか。

まず、（5b）であるが、これは、話し手は聞き手に「あした10時に駅で」会う、つまり「いつ」「どこで」会うのかを伝えているのであって、聞き手に行動を共にするように働きかけているわけではない。

次に、（6b）であるが、それ以前の段階で、佐藤さんは、すでに「～ませんか」を使ってミラーさんを花見に誘っており、ミラーさんに、行動を共にするように働きかけている。そして、ミラーさんが「いいですね。」と言ってその誘いを受けて

いるのであるから、この段階で働きかけは完了している。さらに、(6b)で「～ましょう」を使って、10時に大阪駅で会うことを伝えているが、これは、佐藤さんがミラーさんに行動を共にするように働きかけているのではない。両者がどこかで落ち合うことは（待ち合わせるにしろ、現地で集合するにしろ）、ミラーさんが誘いを受けた時点で決まっているからである。

以下のような「～ましょう」も同様に「勧誘」とは言えないように思われる。

(9) 山田 : a. もう 12 時ですよ。昼ごはんを食べに行き
ませんか。

ミラー : ええ。

山田 : どこへ行きますか。

ミラー : そうですね。きょうは日本料理が食べたいですね。

山田 : b. じゃ、「つるや」へ行きましょう。

(13 課会話)

(9a)では、山田さんは「～ませんか」を使って、ミラーさんにも一緒に昼ご飯を食べに行くように誘っている。これは、行動を共にするように働きかけているため、「勧誘」である。一方、(9b)は、ミラーさんに一緒につるやへ行くように誘っているのではない。ミラーさんが昼ごはんを食べに行くことは、山田さんの誘いを受けた時点で決まっていることである。ここでは、山田さんは、昼ごはんを食べに行くことが決まった上で、つるやへ行くことを提案しているのではないだろうか。

これらのことから、本稿では、(5b) (6b) (9b) のような「～ましょう」を、(8) のように話し手が聞き手に行動をともに

することを働きかける「勧誘」とは区別して、「提案」と呼んでおく。日本語記述文法研究会（2003）では、「しよう」の対話的な用法の1つとして、「行為の提案」を挙げ⁵、「話し合いの中で解決に向けてある行為を提案する、といった用法である」と規定しているが、(5b) (6b) (9b) のような「～ましょう」も、これに含まれると考えられる⁶。

仮に「～ましょう」を「勧誘」として指導するのであれば、(8) のような例を提示すべきである。しかし、初級の段階で類似する用法を同時に指導すべきではないこと、「～ませんか」は「相手の意向を伺う疑問形式になっているので、相手に誘いを断るという選択の余地を与えている表現になる」（川口・蒲谷・坂本 2002）とあり、聞き手の意向を尊重することから、「勧誘」として指導すべきはまず「～ませんか」であり、「～ましょう」はその後に指導することが望ましい、ということになる⁷。

最後に、(7b) であるが、このような「～ましょう」は、話し手の誘いに対する聞き手の応答であり、「勧誘」「提案」とは異なる。したがって、ここで(7b) のような「～ましょう」を指導する必要はないと思われる。話し手の誘いに対する聞き手の応答にわざわざ「～ましょう」を使わずとも、「いいですね」「ええ」といったもので十分だからである⁸。

⁵ 対話的な用法には、「行為の提案」以外に、「行為の申し出」もあるとしている。

⁶ ただし、日本語記述文法研究会（2003）では、「行為の提案」は、聞き手めあての機能があるため「よ」を付加することができること、動作主が話し手に限定されるのか聞き手も含んでいるのかがはっきりしないという特徴を持つとしている。本稿では、このような特徴を持たないものも、「提案」と呼んでいる。本稿での「提案」は、日本語記述文法研究会（2003）の規定よりも広い意味で捉えたものである。

⁷ 野田（2005）では、誘いの機能は「～ましょう」ではなく「～ませんか」で表されることが多いことが述べられている。

⁸ (7) のように、「～ませんか」での誘いに対して、「ええ、～ましょう」と即答するようなやり取りは少ないのではないかと。実際、(6) (8)

以上のことから、(5b) (6b) のようなものは「勧誘」ではなく、「提案」として指導すべきであり、(7b) のようなものは指導する必要はない、ということになる。

以上、これまで「勧誘」とされてきた「～ましょう」は「勧誘」ではないことを述べ、「提案」として指導することを提案した。これにより、「～ましょう」を「～ませんか」とは用法の点でも異なるものとして扱うことができるようになる。

2.3 動作主を明示化した指導

表1で見たように、『みんな』では、「～ませんか」の文の動作主には「あなた」が、「～ましょう」の文の動作主には「わたしたち」が現れるのであったが、これまでは、それぞれの形式がどのような動作主をとるのか、ということについては、明示的に指導されてこなかったのではないかと。しかし、学習者にとっては、その表現がどのような動作主をとるのかという情報は、その使い方を知る上では必要不可欠なものであろう。

そこで、本稿では、動作主を明示して指導することを提案する。理由は、「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」という3つの形式を使い分ける上で重要であると考えられるからである。2.1で見たように、『みんな』においては、「～ましょう」は動作主が「わたしたち」であることがわかりやすいが、「～ませんか」の場合は、「あなた」を動作主にとる文は(6a)のみで、それ以外は明示されていないため、わかりにくかった。したがって、学習者に「～ませんか」の動作

(9)における誘いに対する応答はそれぞれ「いいですね。」「あ、そうですね。」「ええ。」となっており、「ええ、～ましょう」という形式は現れない。また、「ええ、～ましょう」は積極的な応答であると説明されることもあるが、そうすると、何を以て積極的とするのかという説明が必要になってくる。したがって、このような「～ましょう」を初級の時点でわざわざ指導する必要はないと考える。

主が「あなた」であることを理解させるには、「～ませんか」は「あなた」が動作主であることを指導の際に説明するとともに、「あなた」が動作主であることが明示されるような例文を提示する必要がある。

まず、(10) では「あなた」が明示されていないが、(11) のようにすれば、動作主が「あなた」であることが明示できる。

(10) A : あした大阪へ行きませんか。

B : いいですね。

(11) A : あした大阪へ行きます。B さんも行きませんか。

B : いいですね。

次に、(12) は、話し手と聞き手が共に行動する (11) とは違い、聞き手のみが行動する場合である。このような例も提示し、「～ませんか」が、聞き手のみの動作の場合にも使用できることを理解させておく必要がある。

(12) A : 今週の日曜日うちでパーティーをします。

B さん、よかったら、来ませんか。

B : ええ。ぜひ行きます。

このように指導することで、「～ませんか」の動作主が「あなた」であることを学習者に印象づけることができるのではないか。

ただし、「～ませんか」には「わたしたち」を動作主にとると見られる用法もあり、『みんな』では第 20 課に現れる。

(13) あしたみんなで京都 [へ] 行かない？

……うん、いいね。

(20 課例文)

(13) の場合、「行かない？」という「～ませんか」の形式が使われているが、動作主は「あなた」ではなく「わたしたち」である。しかし、(13) の動作主が「わたしたち」と解釈されるのは、「みんなで」という語があるためで、このような「～ませんか」は派生的な用法であると考えられる。第 20 課の指導の際には、説明しておく必要がある。

以上、特に「～ませんか」について動作主を明示して指導することを提案し、動作主が「あなた」であることを明示するために、指導の際にそれを説明し、明示できるような例文を提示することを述べた。

2.4 「～ませんか」と「～ましょう」の指導法

従来類義表現として扱われてきた「～ませんか」と「～ましょう」であったが、2.1 では動作主を明示化し、2.2 では「～ましょう」が「提案」であることを述べた。さらに、2.3 では動作主を明示化する指導法を提案した。以下にまとめる。

課	形式	用法	動作主
6	～ませんか	勧誘	「あなた」
	～ましょう	提案	「わたしたち」

表 2

「～ませんか」と「～ましょう」は、初級の学習者にとっては使い分けが難しい表現である。したがって、学習者が使用する際に混同を避けるためにも、初級の段階においてそれぞ

れがどのように違うのか、ということを指導しておく必要がある。

3. 「～ましょうか」

3.1 『みんなの日本語』における扱い

まず、「～ましょうか」は、『みんな』では第 14 課で「申し出」を表す表現として提出される。

(14) a. 駅まで迎えに行きましょうか。

……タクシーで行きますから、けっこうです。

b. 暑いですね。窓を開けましょうか。

……すみません。お願いします。

(14 課例文)

日本語教育では、「申し出」とは、聞き手にとって有益な行為を話し手自身が行う意志を聞き手に伝えるもの(高梨 2017)であり、初級では「わたし」が動作主である「～ましょうか」が提出される。「～ましょうか」は、「～ませんか」や「～ましょう」とは使われる場面が異なるため、一見問題がないように思われる。ところが、「～ましょうか」の提出時に「～ませんか」との違いは何か、ということが問題になる。これは中国語との対応に問題があると思われるが、これについては後述する。

3.2 「～ましょうか」の指導法

既に見たように、「～ましょうか」は、用法が「申し出」であり、動作主が「わたし」であることから、「～ませんか」や「～ましょう」とは重ならず、日本語の観点だけで見れば、「申し出」「わたし」という情報だけで十分であろう。

4. まとめ

2 節、3 節で述べたことをまとめると、『みんな』においては、「勧誘」として「～ませんか」と「～ましょう」が同時に提出される。しかし、「～ませんか」の動作主が明確でなく、また、「勧誘」を表すとされる「～ましょう」が実際は「勧誘」とは言えない、という問題があった。そこで、本稿では、動作主を明確にし、「勧誘」とされてきた「～ましょう」を「提案」とし、「～ませんか」の動作主を明示する指導法を示した。まとめると、表 3 のようになる⁹。

課	形式	用法	動作主
6	～ませんか	勧誘	「あなた」
	～ましょう	提案	「わたしたち」
14	～ましょうか	申し出	「わたし」
20	～ませんか	勧誘	「わたしたち」

表 3

このように、それぞれの形式における動作主と用法を明確にし、差異化することで、それぞれの形式における違いを明確に示すことができるのである。このような差異を指導することで、初級段階の学習者にとって、3 形式の使い分けが理解しやすくなるのではないか。

5. 中国語との対応とずれ

ここでは、「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」のそれぞれの形式と中国語との対応及びずれが、冒頭で挙げた誤用の原因の一つになっていることを論じる。

⁹ 第 20 課に現れる「わたしたち」を動作主にとる「～ませんか」も加えた。

5.1 中国語との対応とずれ

まず、「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」が、中国語ではどのように表現されるのかを見ていく。

『文法解説』¹⁰を見ると、「～ませんか」は「要不要～」に、「～ましょう」「～ましょうか」は「～吧」に対応するようである。

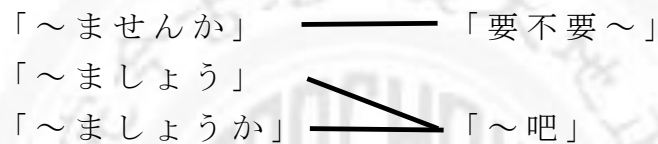


図 1

図 1 を見る限りでは、それぞれの形式における対応は一見単純である。しかし、「～ませんか」を使った「勧誘」の場面では、「要不要～」だけでなく、「～吧」も使われる¹¹。(15)は、2.1 で見た (7a) に『文法解説』の中国語訳をつけたものの、(16) は、(15) の「要不要～」を「～吧」に置き換えたものである。

(15) いっしょに京都へ行きませんか。

要不要一起去京都呢？

(16) いっしょに京都へ行きましょう。

一起去京都吧。

¹⁰ 『大家的日本語 初級Ⅱ 改訂版(文法解説・参考語彙・課文中譯)』

¹¹ 「～吧」は聞き手との関係がより親しい場合に、「要不要～」は聞き手にその行為が必要かどうかを尋ねることから丁寧さが生じる、というニュアンスの違いがあるようである。

このことから、「～ませんか」に対応するのは、「要不要～」だけでなく、「～吧」もまたそうであることがわかる。

さらに、「～ましょうか」を使った「申し出」の場面では、「～吧」だけでなく、「要不要～」も使われるようである。(17)は、3.1 で見た (14) に『文法解説』の中国語訳をつけたもの、(18) は (17) の「～吧」を「要不要～」に置き換えたものである。

(17) a. 駅まで迎えに行きみましょうか。我去車站接你吧？

b. 窓を開けましょう。打開窗戶吧？

(18) a. 駅まで迎えに行きみましょうか。要不要去車站接你？

b. 窓を開けみましょうか。要不要打開窗戶？

このことから、「～ましょうか」に対応するのは、「～吧」だけでなく、「要不要～」もまたそうであることがわかる。

以上のことを図示すると、図 2 のようになる。



図 2

中国語の観点から見ると、「要不要～」は「～ませんか」にも「～ましょうか」にも対応する。つまり、「勧誘」としても「申し出」としても使えることになる。このため、「～ましょうか」の指導の際に「～ませんか」との違いが問題になるのである。さらに、「～吧」は「～ませんか」「～ましょう」「～ましょう

か」のいずれにも対応している。つまり、「勧誘」「提案」「申し出」のいずれにも使えることになる。このため、「勧誘」の場面で「～ましょう（か）」が使用されるのではないか。

図 2 からわかるように、それぞれの形式は複雑な対応を見せている。このような日中の各形式における対応の複雑さが、「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」のそれぞれの使い方を難しくしており、結果、学習者が混同してしまうと考えられる。

5.2 「要不要～」と「～ませんか」「～ましょうか」との混同

5.1 では、「要不要～」が「～ませんか」にも「～ましょうか」にも対応することを述べた。(19) は「勧誘」の「～ませんか」、(20) は「申し出」の「～ましょうか」である。

(19) a. いっしょに京都へ行きませんか。

要不要一起去京都呢？

b. うちへ来ませんか。 要不要來我家呢？

(20) 窓を開けましょうか。 要不要打開窗戶？

(19) (20) を見る限りでは、いずれの場面でも「要不要～」が使える。しかし、中国語「去」「來」「打開」の動作主を詳しくみると、(19a) (19b) はそれぞれ「(你) 要不要一起去京都呢？」「(你) 要不要來我家呢？」となり「去」「來」の動作主は「你」である。それに対して、(20) の「～ましょうか」をより厳密に訳せば（自然な中国語ではなくなるが）

「(你) 要不要 (我) 打開窗戶？」となり「打開」の動作主は「我」となる¹²。このようにすれば、「～ませんか」は「(你)

¹² 自然な訳にするのであれば、「要不要幫你打開窗戶？」というように、「要不要幫你～」で表すこともできる。

「要不要～」、「～ましょうか」は「(你) 要不要 (我)～」というように、それぞれの違いを訳し分けることができるのではないか。現指導において、「～ませんか」は「勧誘」であり「要不要～」に対応し、「～ましょうか」は「申し出」であり「～吧」に対応すると説明するだけでは、学習者はその違いを理解できない。この説明だけでは、「要不要～」が「～ませんか」にも「～ましょうか」にも対応すると思ってしまう、なぜ(20)で「～ませんか」が使えないのか、「～ませんか」と「～ましょうか」はどう違うのか、ということが理解されないのである。

このことから、「勧誘」の「～ませんか」の動作主は「あなた」、「申し出」の「～ましょうか」の動作主は「わたし」であることを提示するとともに、それぞれが「(你) 要不要～」 「(你) 要不要 (我)～」に対応することを指導できれば、学習者にとっても両者の使い分けがより理解しやすくなるのではないか。したがって、日中それぞれの形式を対応させて指導することを考えた場合、図 1 ではなく、次の図 3 のような対応関係を示せば、混同することがなくなるのではないか。

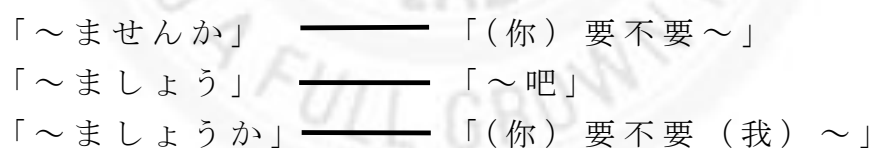


図 3

5.3 「～吧」と「～ましょう」「～ましょうか」とのずれ

図 2 で見たように、「～吧」は「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」に対応することから、動作主に「あなた」「わたしたち」「わたし」のいずれをもとることができるのであった。一方、日本語では、「～ませんか」の動作主は「あなた」「わたしたち」のみ、「～ましょう」「～ましょうか」の動

作主は「わたし」「わたしたち」のみという制限がある。この相違は、「～吧」が話し手の部分的把握を基本的意味に持つ（王 2005）のに対して¹³、「～ましょう（か）」は基本一人称の意志の用法（姫野 1998）であることによると考えられる。すなわち、前者は話し手の把握を表すのであるから、話し手（「わたし」）の行為であるか聞き手（「あなた」）の行為であるかにかかわらず使用できる。つまり、動作主に制限は生じないのである。これにより、「～吧」が「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」のいずれにも対応するのであろう。一方、後者は一人称の意志を表すため、話し手（を含む聞き手）の行為にしか使用できず、動作主が制限される、というわけである。

それぞれの形式と動作主との関係を表にまとめると、以下のようになる（（○）は初級では指導項目として提出されない用法）。

動作主 \ 形式	～ませんか	～ましょう	～ましょうか	～吧
「わたし」	×	（○）	○	○
「あなた」	○	×	×	○
「わたしたち」	○	○	（○）	○

表 4

表 4 から、「～吧」は、「～ませんか」には現れない動作主「わたし」をとり得ると同時に、「～ましょう」「～ましょうか」には現れない動作主「あなた」もとり得ることがわかる。つまり、「～吧」は、「～ませんか」「～ましょう」「～ましょう

¹³ 「話し手が物事を部分的に把握し、確定的な結論に至っていないため、ほかの要素も同時に存在することをほのめかす。」（王 2005）

か」のそれぞれが表せない部分をすべてカバーしていることになる。学習者が、「あなた」が動作主である「勧誘」の場面で「～ましょう」「～ましょうか」を使ってしまうのも、おそらく「～吧」を「～ましょう」「～ましょうか」と対応させ、「～吧」の使い方がそのどちらにもそのままあてはまると思ってしまうためであろう。

5.4 誤用の原因

「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」のそれぞれの形式に対応するのは、「要不要～」と「～吧」としただけでは、中国語と一対一には対応させることができず、対応が複雑になることは図 2 で見た。また、「～吧」が、「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」のそれぞれが表せない部分をすべてカバーしていることは表 4 で見た。

ここで、冒頭で見た誤用を改めて見てみよう。(1) は「申し出」の場面で「～ませんか」を使った誤用、(2) は「勧誘」の場面で「～ましょうか」を使った誤用である。

(1) (授業が終わって)

S : # 先生、黒板を消しませんか。

(2) (S1 が S2 を野球の試合に誘う)

S1 : # 野球の試合を見に行きませんか。↑

(再掲)

これらは、「要不要～」が「～ませんか」とも「～ましょうか」とも対応すると思ってしまうことから生じる誤用であると考えられる。(1) (2) は中国語ではいずれも「要不要～」で表されると思ってしまうため、「～ませんか」と「～ましょうか」を混同しているのである。(1) は「(你)要

不要（我）擦黑板？」のつもりで、(2) は「(你)要不要一起去看棒球比赛呢？」のつもりで、それぞれ「～ませんか」「～しましょうか」を使ってしまっているのである。中国語ではいずれも「要不要～」で表せる一方、日本語では 2 つの形式を使い分ける必要がある。このような間違いを防ぐためにも、「～ませんか」の動作主は「あなた」であり、「～しましょうか」の動作主は「わたし」であることを指導しておく必要があるのである。(1) で「～ませんか」を使うと、先生が黒板を消すことになり、(2) で「～しましょうか」を使うと、話し手が野球の試合を見に行くことを申し出ているか、話し手と聞き手がどこに行くかを話し合っている場面で、話し手が相手を気遣って試合を見に行くことを提案する発話になってしまう。

次に、(3) (4) を見てみよう。

(3) (S1 がみんなとお菓子を食べていて、教室に入ってきた S2 に)

S: このお菓子は美味しいですよ。S2 さんも一緒に
{a. ?食べましょう / b. *食べましょうか}。

(4) S: 日曜日私の誕生日ですから、パーティーをします。
うちへ {a. *来ましょう / b. *来ましょうか}。

(再掲)

(3) (4) のような「あなた」が動作主として現れた場合に、「食べましょう (か)」「来ましょう (か)」のように、「～ましょう (か)」を使ってしまうのは、「～吧」が「～ましょう (か)」に対応していると思ってしまっていることによる。「～ましょう」が「勧誘」であると指導されていれば、「～吧」に対応する「～ましょう (か)」を (3) (4) のような場面で

使ってしまうのも当然であろう。

しかし、繰り返し述べてきたように、「あなた」を動作主にとり得るのは「～ませんか」である。「あなた」が動作主であることを明示して指導することにより、このような、誤用も防ぐことができると考えられる。

このように、冒頭で見た誤用は、教科書及び指導上の問題に加えて、中国語との対応やずれにより生じた複合的なものであると考えられる。したがって、表 3 で示したように、それぞれの形式について、用法と動作主を差異化・明示化して提示し、図 3 や表 4 で示したように、中国語との対応やずれを示すことで、学習者の誤用を防ぎ、適切な理解と産出につなげることができるのではないか。

6. 終わりに

本稿で扱ったのは、初級の、しかも前半に現れる「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」の指導法である。この 3 形式は、それぞれが場面ごとに異なる用法を持ち、その用法也多岐にわたる。それにもかかわらず、初級の初めに提出されて以降、再び文法項目として指導されることはない。教えられるべき用法が、教えられることなく、未習のままになってしまっているのである。以下の例は、その一例である。ワンさんが不動産屋を訪れている場面での会話である。

(21) ワン : この部屋、きょう見ることができますか。

不動産屋 : ええ、今から行きましょうか。

(22 課会話)

(21) では「～ましょうか」が使われているが、この「～ましょうか」は、第 14 課で提出される動作主が「わたし」である「申し出」の「～ましょうか」ではない。動作主はワンさ

んと不動産屋の「わたしたち」である。このように、よく使われる表現であることは、文法項目以外の箇所に現れることからわかる。知っていれば便利な表現なのである。しかしながら、初級で提出されて以降、指導されないままになっているのが現状である。

「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」には様々な用法がある。そのため、「文法は初級で終わり」「形式単位で教える」という考え方を捨て去った上で、初級から中級、中級から上級へと長期的な展望を持って、どの段階でどの項目を配置していくかを考え、最終的に体系的に示すことが必要となってくるのではないだろうか。

本稿では、考察対象を初級前半の3形式の用法の指導に絞ったため、「要不要～」や「～吧」については特に踏み込んだ考察は行わず、日本語の観点から見て、中国語との対応やずれを示す指導法を提案するにとどめた。しかし、中級以降も見据えた指導法を考案するのであれば、「要不要～」「～吧」についても考察することは必要不可欠であろう。

また、ここでは指導法を提案したのみであったが、この指導法を実践することで、その問題点を洗い出し、改善することも必要となってくる。

以上のことは、今後の課題としたい。

付記

本稿は、2019年10月26日に東呉大学で行われた「東呉大学外国語文學院創立35周年シリーズイベントー2019年日本語教育国際会議ー」において口頭発表したものを加筆・修正したものである。発表に際して、特に政治大学の王淑琴先生から貴重なご意見、ご指摘をいただきました。心より感謝申し上げます。また、匿名の査読者からも貴重な修正意見をいただきました。合わせてお礼を申し上げます。

参考資料

- スリーエーネットワーク (2012)『みんなの日本語初級Ⅰ』[第2版]、東京：スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク (2013)『みんなの日本語初級Ⅱ』[第2版]、東京：スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク (2016)『みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き』[第2版]、東京：スリーエーネットワーク

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク。
- 市川保子 (2005)『初級日本語文法と教え方のポイント』東京：スリーエーネットワーク。
- 王志英 (2005)『命令・依頼の表現 日本語・中国語の対照研究』東京：勉誠出版。
- 川口義一・蒲谷宏・坂本恵 (2002)「待遇表現としての「誘い」」『早稲田大学日本語教育研究』第1号、東京：早稲田大学大学院日本語教育研究科、pp. 21-30。
- 高梨信乃 (2017)「意志表現の扱いをめぐって」江田すみれ・堀恵子編『習ったはずなのに使えない文法』、東京：くろしお出版、pp. 45-64。
- 日本語記述文法研究会 (2003)『現代日本語文法 4 第8部 モダリティ』、東京：くろしお出版。
- 野田尚史 (2005)「コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』、東京：くろしお出版、pp. 1-20。
- 姫野伴子 (1998)「勧誘表現の位置—「しよう」「しょうか」「しないか」—」『日本語教育』第96号、pp. 132-142。

姫野伴子（2012）「第 39 課「ましよう（か）」」近藤安月子・
姫野伴子編『日本語文法の論点 43—「日本語らしさ」の謎
が氷解する—』、東京：研修社、pp.199-203。

